

## 日中韓シンポジウム開催のお知らせ

### 「北東アジア農政研究フォーラム第6回シンポジウム」

農林水産政策研究所は、平成15年3月、中国農業科学院農業経済発展研究所及び韓国農村経済研究院との間で、北東アジア地域における農業構造、農業環境、農産物貿易等の諸問題についての研究協力を行うため、北東アジア農政研究フォーラムを立ち上げることに合意しました。

こうした研究協力の一環として、三カ国の研究所は北東アジア地域の農業・農政に関わる共通テーマの下、各研究機関の研究成果を持ち寄って討議する国際シンポジウムを持ち回りで平成15年から毎年開催しています。第6回目となる本年は、日本において以下のとおり開催します。

#### ■日 時■

平成21年3月4日（水）午前10時～午後6時（9時30分受付開始）

#### ■会 場■

中央合同庁舎第4号館・9階 農林水産政策研究所セミナー室

住所：東京都千代田区霞が関3-1-1

#### ■議 題■

- 1、農村地域振興と農業 [研究発表及びパネル討議]
- 2、国際食料需給状況 [研究発表及びパネル討議]

#### ■参加機関■

農林水産政策研究所、中国農業科学院農業経済発展研究所、韓国農村経済研究院

#### ■言 語■

日本語、中国語、韓国語、英語の同時通訳

#### ■定 員■

約30名（準備の都合上、事前の申し込みが必要です。）

※詳細につきましては、当所HPに掲載予定でおりますのでご覧下さい。

#### 編集後記

移転して初めての正月を迎えました。空気の澄んだ新年にビルの間から見えた富士山も格別でした。本年もよろしく願い申し上げます。今月号は京都大学 大学院 中川瑠美さんの研修報告を掲載しました。文中のコウノトリの取組は、豊岡市のホームページで詳しく紹介されていますので、興味のある方はご覧ください。

## Primaff News

—農林水産政策研究所だより—  
VOL.15 平成21年2月4日発行  
農林水産省農林水産政策研究所  
企画広報室広報資料課  
TEL：03-6737-9012



※バックナンバーはHPをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/primaff/koho/seika/news>

# Primaff News

VOL.15 平成21年2月4日発行



インターン研修を終えて



日中韓シンポジウム開催のお知らせ



シジュウカラ（北海道苫小牧市高丘）



## インターン研修を終えて

京都大学大学院 地球環境学舎 中川瑠美

私はインターン研修生として昨年9月から12月末までの4カ月間、農林水産政策研究所（以下政策研）にてお世話になりました。本籍は京都大学大学院 地球環境学舎 環境マネジメント専攻の修士課程1年です。私が所属する地球環境学舎では、環境に関する実務者養成を目指して数カ月の長期インターン研修を必修科目と定め、学生は個人個人の専門分野に応じて研修を行います。私は名古屋大学の農学部を卒業し、現在の大学院では環境経済学を専門としています。私は農・食料・環境・経済をキーワードに研修先を探し、政策研に受け入れて頂くことが決まりました。

研修受け入れが決定するにあたって、私は二つの目的を持ちました。一つは、社会科学系の研究の流れや手法を現場で学ぶこと、そしてもう一つは、インターン研修後の修士研究のテーマを決定することです。それらの目的を胸に、9月の始めに研修を開始しました。

4カ月間のインターン研修の柱となったのは、林主任研究官のもとで行った研究補助です。環境政策研究プロジェクトの一部である「生物多様性に配慮した農業推進に関する分析」に関して、生物多様性の経済評価を行うためのアンケート調査の補助業務を行いました。アンケート調査の対象は、兵庫県豊岡産の生物保全に配慮したお米の購入者です。4カ月間を通じて、アンケート調査票の作成段階から集計までの一連の流れを経験し、また時には同研究に関連する打ち合わせに参加することもありました。そして12月中旬には、豊岡市の取組に関するセミナーが実施され、私自身も暫定的な集計結果を報告する機会を頂きました。



セミナー会場の様子



セミナーでの報告



コウノトリ  
写真:豊岡市提供

研究補助を通じて、多くの方々との出会いがありました。アンケート調査に御協力いただいた豊岡市や米穀店の方々を始めとし、政策を推進する立場にある農林水産省本省の方々、さらに同プロジェクトに参画されている他機関の先生方、そしてアンケートの集計を通じて消費者の方々の意識にも触れました。驚いたのは、同じアンケート調査であっても、それを見る方の立場によって、見ているものにあまりに大きな違いがあったことです。市の方には市の視点と意図が、そして本省の方には省の視点と意図、また米穀店の方や先生、消費者にもそれぞれの視点と意図がありました。そして、頂いた御意見の要所から、それぞれの立場にある考え方を垣間見ることができます。研究補助では手法を学ぶだけでなく、国や自治体、個人など、各立場への理解を深めることができたのではないかと思います。

業務環境は、できる限り研究者の方々に近づこうと整えて下さいました。デスクやメールアドレスを頂き、研究補助の他には、研究領域ごとに行われるミーティングや政策研内での定例研究会にも出席しました。ミーティングでは、農林水産省の行政当局からのさまざまな情報にリアルタイムで触れ、省の動きやそれに対する政策研の方々の対応を見ることができたのも、インターン研修ならではの経験の一つでした。また、他省庁のセミナーや他機関のシンポジウムにも足を運び、より実学に近い視点で農業や環境を学ぶこともありました。

私にとって好機だったのは、農林水産省や経済産業省が開催する国内のバイオ燃料に関する会議を傍聴する機会が何度も頂けたことです。国内の会議は、国際会議に向けた日本の立場を検討するというものでした。研修期間の4カ月の中に、海外で2度の国際会議が開催されたため、国内外で議論が進展する流れを身近で感じました。日本の国際交渉に向けた実務を肌で感じる事ができたことは、環境を勉強する上で非常に重要な経験だったと思います。

12月末にインターン研修を終え、私は大学院に戻って修士研究に入りました。インターン研修の目的は最低限達成できましたが、研修を通じて自分自身の至らぬ点を多く自覚しました。その部分は今後の課題です。当初に持った目的の他に、今回のインターン研修で得た大きな成果は、政策が作られる現場と現実への理解ではないかと思えます。環境は、公的な政策が重要な位置を占めているにも関わらず、大学院生が現場を学ぶ機会は減多にありません。インターン研修を通じて得た貴重な経験は、2年の修士課程に留まらず、自分自身の今後の人生に活かしていきたいと思えます。

今回、政策研として初めてインターン研修を受け入れて頂き、多くの方の御理解と御協力のもと、充実した4カ月を過ごすことが出来ました。厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

### ●豊岡市におけるコウノトリ保全に関するセミナー開催概要●

日時:平成20年12月10日(水)14時~16時30分

場所:農林水産政策研究所セミナー室

テーマ:「豊岡市におけるコウノトリ保全の取組について」

兵庫県豊岡市では、古くからコウノトリ保全の取組が行われ、コウノトリのエサとなる生き物の保全に配慮して作られるお米は「コウノトリ育むお米」として高い人気を誇っています。

このセミナーでは、コウノトリの保全に携わる豊岡市若森氏、「コウノトリ育むお米」の生産・販売に携わるJAたじま堀田氏より、豊岡市におけるコウノトリ保全の取組や「コウノトリ育むお米」についてお話しいただきました。また、お二方のご協力のもとで農林水産政策研究所が行った「コウノトリ育むお米」を購入した消費者へのアンケート調査の概要を報告し、九州大学矢部先生にアンケート調査をもとにしたコウノトリ保全の経済評価分析について今後の計画をお話しいただきました。



コウノトリ保全に携わる豊岡市・若森洋崇氏の講演



「コウノトリ育むお米」販売風景/都内百貨店